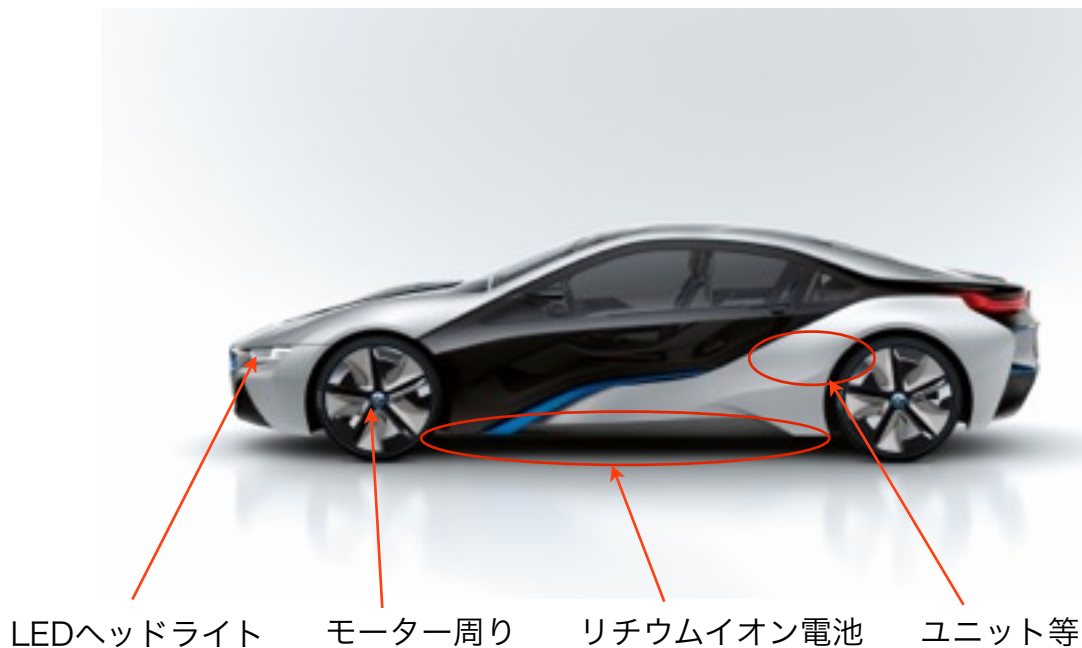


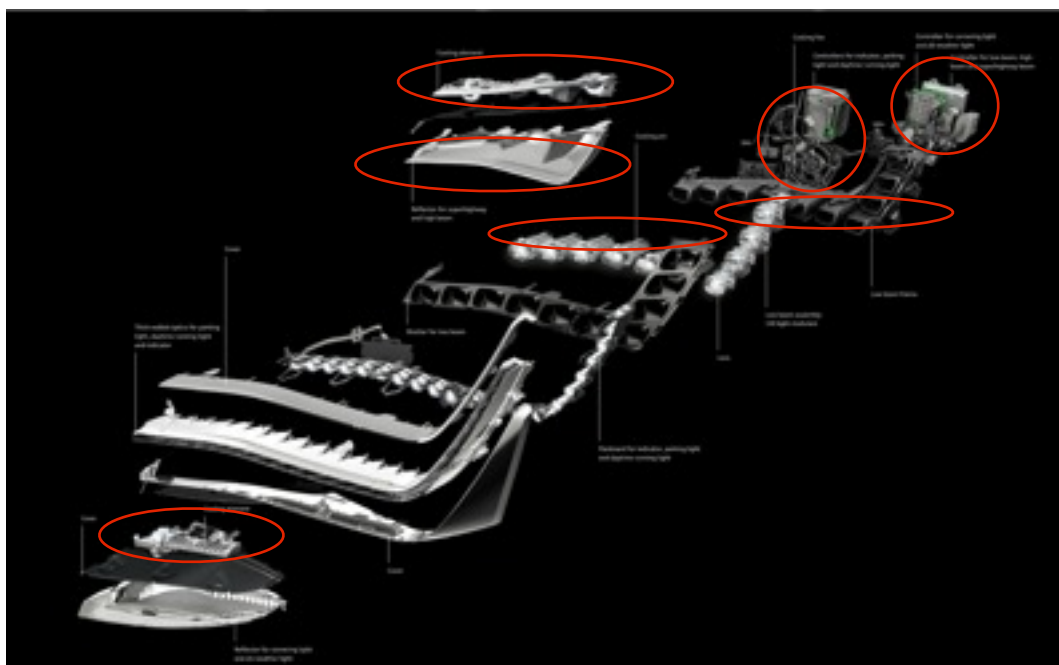
# UNI Cool 参考資料

- ・ユニクールは塗装することで放熱効果を高める事が可能です。

参考例：

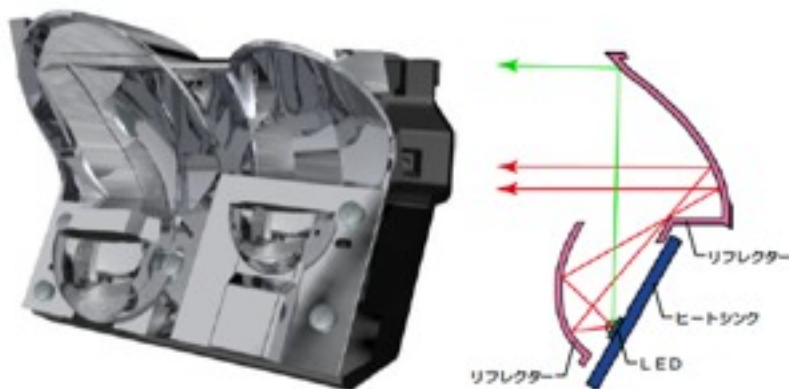


- ・LEDヘッドライト①

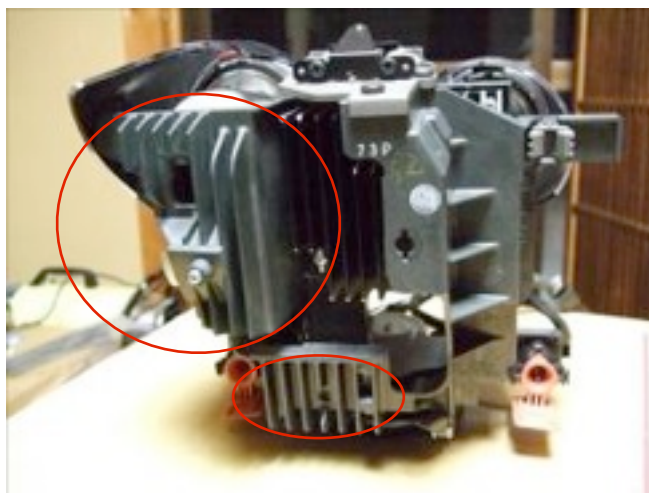


LEDヘッドライトのあらゆる箇所への適応が期待されます。  
AIリフレクターなどに使用しても光沢を維持したまま放熱が可能です。  
また、塗装による放熱効果によりクーリングファンの小型化や停車時など対流が起きにくい場合の各機器への負担減が可能です。

## ・LEDヘッドライト②



LEDのヒートシンクに塗装する事でアルマイトと同等以上の放熱効果を発揮します。また、AIリフレクターなどへ塗装した場合には、透明であるため可視光を阻害せず、金属光沢を生かしたままリフレクター面からの熱放射により、熱を逃がす事も可能になります。

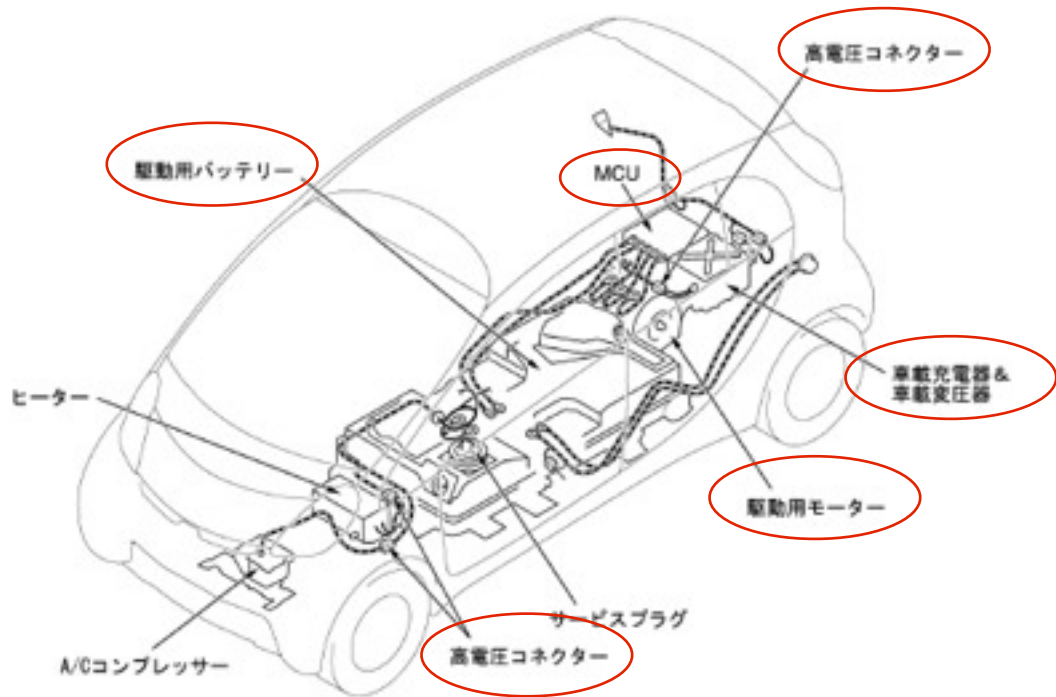


LEDヘッドライト裏のフィンを熱放射により減らす、もしくは小さくする事が可能となります。

また、従来スペースの関係でフィンが設置できない場所でも、塗装する事で放熱を補助する事が可能です。

# UNI Cool 参考資料

・ユニット関連／バッテリー等



ハイブリット車やEVの高熱を運びやすい箇所や、バッテリーなどにユニクールを塗装する事で放熱性が向上し、製品寿命の拡大が可能です。  
また、高温による機能低下や誤動作の発生も少なくなります。

ユニットについては内部の部品へ塗装する事で筐体へ熱を赤外線により移動させる事も可能です。

※筐体内側にも赤外線を受けるためのユニクール塗装が必要です。

また、ガソリン/ディーゼル車などのコントロールユニットにおいても同様に使用が可能です。

それ以外にも車内の電子機器（オーディオ・ナビ等）への熱対策へ使用する事も可能です。

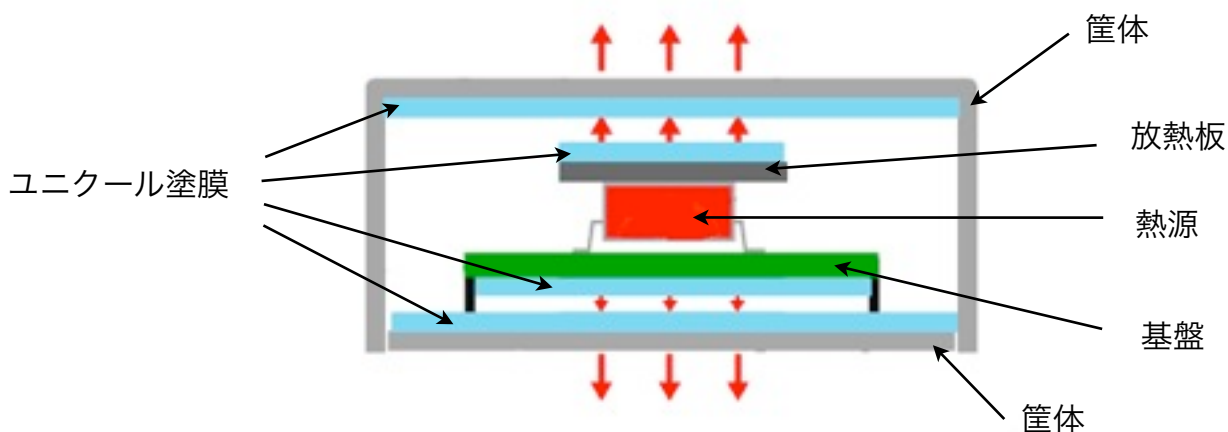
- ・窓ガラスなどへの利用



窓ガラスの表面へ塗装、もしくは塗工したフィルムを貼付ける事によってユニクールが太陽光の赤外線を吸収しますので、車内へ入る赤外線量が減少します。

※透過率の問題がございますのでフロントガラス3面への使用は確認が必要です。

- ・ユニクールによる熱移動（熱の授受）



ユニクールは赤外線により熱の移動が可能です。

熱源で生じた熱エネルギーを、放熱板と基盤に塗ったユニクールが筐体側へ熱放射します。

その赤外線を筐体内側に塗ったユニクールで受け取ります。

また筐体外側にユニクールを塗装する事で筐体に移った熱を放出できますのでさらに効果は高まります。